

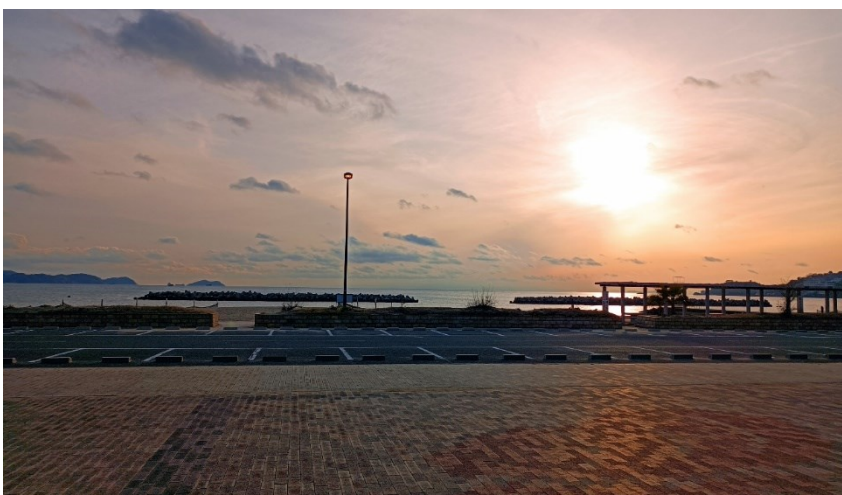
# 千の間違った言葉

ゴンサルベス・サントス・ギレルメ  
日本語・日本文化研修留学生 ブラジル

西暦 13 世紀に藤原為氏は、玉津島について、「人とはば 見ずとやいはむ たまつ島 かすむ入江の 春のあけぼの」という歌を詠みました。その詩は「もし誰かが訊いてきたら、私は玉津島の春の日の出に霞んだ入江を見てないと答える」という意味です。僕はコリンズ先生の授業で初めてこの詩を勉強したときの気持ちを今でも思い出せます。先生がすぐある矛盾を示しました。詩人の答えは「見てない」ですが、もし本当に見ていないなら、どうやって春の日の出の時間の入江のかすみについてこんなに詳しく言えますか。本当は見たことがあります、言葉がああきれいな景色を映し出せないと思うので、見てないと答えた方がいいのだと先生が説明しました。藤原家の詩人のこと理解できないと感じました。真実を隠すつもりがあるのに、どうして本当は行ったことが明らかにわかる内容を歌を詠んだのでしょうか。

それについて長く考えました。授業の後で部屋に戻り、パソコンをつけ、新しい学期が始まる 2～3 週間前ごろに撮った写真を見ました。その写真は玉津島の写真ではありませんでしたが、近いところ、片男波海岸の写真でした。そのころは、まだ和歌山市に着いたばかりなので、ここに何がありあそこに何があると、自分ではまだあまり分かりませんでした。片男波には「万葉館」があると聞いたので、大変興味を持ちました。その日はもう閉館していました。夕日の時間ですから、仕方がないと思いました。僕は、その日に万葉館からの和歌の知識を得られませんでした。かわりにその夕日の風景から和歌についての教を貰いました。その時はまだ分かりませんでした。スマホで撮った写真はその証拠です。

あの木曜日、授業から帰った後も、先生の説明が僕の頭に残りました。表面的な言葉は矛盾しているように見えても、言葉の背後の意味は「言葉でどんな説明をしてもそれが足りない」ということなので、その詩には矛盾がないと先生が言いました。作品が何百年も残っている詩人の言葉を使う能力は非常にとびぬけているはずでしょう？ しかしその人でも説明できないと思ったのなら、確かに考えさせられます。言葉では表せないなら、何で表すことができるのでしょうか。



西暦 21 世紀に生きている者として、早速頭に浮かぶ答えは写真です。「画像は千の言葉と同じ価値がある」という英語のことわざも、その考え方を表しています。そのように千の言葉と写真が同じ価値なら、確かに現代に生きている人達は誰もが手に持っているスマートフォンでいくつかの千の言葉を一瞬で写真に替えることができますね。僕は部屋に帰った時に、パソコンをつけたら、デスクトップの画像がちょうどその片男波海岸の夕日の写真で、それを見たら、写真に何かの違和感を感じました。しかし、なぜ違和感を感じたのかということに気付くまでには後数週間待たなければなりませんでした。

その機会は、急に友達が「蛍を見に行こうか？」と誘ってくれた時でした。町の親切な人が車で連れて行ってくださり、「江川中蛍鑑賞地」という所まで行きました。夜の森に低く飛んでいる小さい蛍たちは非常に美しかったです。どうやって撮ってみてもスマートフォンの画面に映った蛍は僕が見た蛍と同じではありませんでした。そう言ったら、その場所で活動しているボランティアの人が機械のレンズより、必ず目で見て心の中に蛍の記憶を保存してくださいと言いました。記憶は他の人に見せられないと反論したかったですが、そのことを言うより、片男波海岸の写真を思い出しました。

今でもその写真は本当にきれいだと思いますが、実際に見た景色よりきれいではありません。同じぐらいきれいでもありません。つまり、この写真は千の言葉と同じ価値があっても、実際の景色を表せないのだから、その千の言葉は最後の言葉まで全部間違った言葉のはずだと思いました。その瞬間に藤原為氏の本当の気持ちに触れたと感じました。人間の表現能力は限界があります。人間が作るものも同じように人の限界に制限されています。藤原為氏の生きていた鎌倉時代から今の令和時代まで人の命で測れないぐらいの長い時間が経ちましたが、いまでも本当の美は人の手が届かないところにあることに納得します。

だが、もし詩人と同じようにあの景色の美しさについて訊かれたら、そのとき僕は「見ずとやいはむ」と言いたくなくても、見に行くしかないと言います。一生大切に好き好き「千の言葉」を持っていますが、実際見ていない人に対してこの写真は千の間違った言葉に他なりません。

## **A Thousand Wrong Words**

**Goncalves Santos, Guilherme**  
**Japanese Studies Student / Brazil**

When I first arrived in Wakayama, I still didn't know how to go from here to there, but had the opportunity to be taken to Kataonami Beach, which the Man'yōkan is close to. Unfortunately, that day the museum was already closed, but despite not being able to enter, still I got an unmeasurable lesson in Japanese poetry when seeing the sunset there. Something I would only understand some time later. After that the university classes started and at Professor Collins' class we saw Fujiwara no Tameuji's poem "If anyone asks, I'll say I didn't see it, Tamatsushima, wreathed in haze at the dawn of spring". The apparent paradox between the negative and the very detailed description left me thinking. If even a poet of Fujiwara's caliber found words to be insufficient, what would be? As someone living in the 21<sup>st</sup> century, I thought photos! After all, an image is worth a thousand words, they say. But upon visiting Ekawanaka to see the fireflies, despite all my efforts to take a picture of them, you just couldn't see anything on the cellphone's screen, so someone said "look and save it in your heart". The picture I took of Kataonami's sunset, as the fireflies, just wasn't the same thing. If a picture is worth a thousand words, then those words were, like Fujiwara feared, a thousand wrong words.

## **Mil Palavras Erradas**

**Guilherme Gonçalves Santos**  
**Estudante de Estudos Japoneses / Brasil**

Quando eu cheguei em Wakayama ainda não sabia o caminho para cá e para lá, mas tive a sorte de que me levassem à praia de Kataonami, onde há por perto o Man'yōkan. Infelizmente o expediente já havia acabado, mas apesar de não conseguir entrar no museu, ainda assim tive uma lição inestimável sobre poesia japonesa ao ver o pôr do sol lá. Algo que só compreenderia algum tempo depois. Ao começar o período letivo, estudei na aula do professor Collins um poema de Fujiwara no Tameuji que diz "Caso me perguntem, direi jamais ter visto Tamatsushima e sua aurora de primavera envolta em neblina". O aparente paradoxo entre a negativa do poeta e a detalhada descrição deixou-me pensativo. Se até um poeta cujo talento o levou a sobreviver séculos acreditava que palavras não bastariam, o que bastaria? Como alguém vivendo no século XXI, pensei em fotos. Afinal, uma imagem vale mais que mil palavras, dizem. Mas ao visitar o campo de Ekawanaka para ver vagalumes, por mais que tentasse fotografá-los, não apareciam bem no celular, então me disseram "veja bem e grave no coração". A foto que tirei do sol poente em Kataonami, igualmente, não era a mesma coisa. Se uma imagem vale mil palavras, aquelas eram, como Fujiwara temia, mil palavras erradas.